

編集後記

『戦史研究年報』第14号をお届けします。

平成22年は、安保改定50周年の節目の年でありました。一方、当研究所編さんのオーラル・ヒストリーも8年目となり、初めてオーラル・ヒストリーを分析した戦後史に関する論文を掲載しております。この論文は、当研究所オーラル・ヒストリー群の活用法について考察し、文書史料の補完・代替による政策決定過程の追跡、文書史料に表れない政策上の背景の解明等、従来の研究と異なる新たな視点から論じた斬新な論考となっています。また「史料紹介」では、従前の当研究所所蔵の文献史料の紹介だけでなく、他機関所蔵の文献史料も掲載し、より多くの読者諸兄に興味深くご高覧いただける内容に仕上げることを目標にしました。他機関所蔵の文献史料は、陸上自衛隊衛生学校所蔵史料の『原子爆弾に依る広島戦災医学的調査報告』の英訳版である『*Medical Report of The Atomic Bombing in Hiroshima*』であります。他に当研究所所蔵の「国際聯盟第一回総会ニ関スル報告」及び「復舊工事工程の件」の史料を掲載しました。

「論文」は、上記の論文の他、戦史部所属研究者による平成21年度調査研究成果の中から、3篇を掲載しました。井澤論文は、これまで光の当てられていなかった日本海軍の後方支援計画に関する史的検証を行った意欲的な論考です。高橋論文は、米国による対日措置が「経済制裁」又は「経済封鎖」のいずれであったのかを解明しようと試みる今日的意義を見据えた論考です。川井論文は、米艦隊の日本来航に至る経緯と日本側の対応を究明するとともに、日米関係に与えた影響などについても考察した有益な論考となっています。「研究会記録」は、防衛研究所戦史部が、平成22年4月に実施した研究会において、英国エクセター大学歴史学部・海軍史担当講師であるローラ・ローウェ博士が、社会学の観点から、「規律体系」、「懲罰体系」、「自己規律」、「訓練指導体系」といった4つの分野に関して英国海軍の歴史について行った報告を掲載しました。「国際会議参加報告」は、アムステルダムで開催された第36回国際軍事史学会大会の概要(日本語)及び同大会で岩谷教官が発表した論文(英語)を掲載しました。「活動報告」は、平成22年に戦史部が実施した諸活動、図書館史料閲覧室の閲覧状況等を掲載しました。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも、さらなるご協力を頂戴できますよう、お願い致します。

(平山 実)